

認知症サポーター養成への取り組み

地域の方々に認知症に対する理解を深めてもらいたいという思いから、認知症サポーター養成研修を開催し、新たな認知症サポーターを養成している。この活動を通じて、認知症に対する正しい知識が広まることを目指している。

社会福祉法人 **サンライフ**

〒509-0143 岐阜県各務原市鷺沼小伊木町3-170-1
TEL : 058-379-5411 / FAX : 058-370-9211 / E-Mail : taka-minami@e-sunlife.or.jp

【法人の概要】

法人設立年：昭和62年
経営施設、特別養護老人ホーム 8 施設
定員計840床（ショートステイ含む）
全室個室・ユニットタイプ4施設
（特養350床・ショート62床）
従来型4施設（特養364床・ショート64床）／介護老人保健施設…3施設（定員348床）／ケアハウス…3施設（定員160名）／ケアハウス（特定施設）…1施設（定員29名）／デイケア3施設…（定員180名）／グループホーム…12施設（定員計135名）／生活支援ハウス…2施設（定員計25名）／小規模多機能型居宅介護…2施設／その他訪問介護…4／訪問リハビリ…1／居宅支援事業…9／在宅介護支援センター…1／地域包括支援センター…4／福祉用具レンタル…2／ホームヘルパー養成事業…2

愛知県（名古屋市、春日井市、江南市）岐阜県（各務原市）、長野県（下諏訪町、岡谷市、辰野町、蓑輪町、木曾町）において、高齢者福祉施設を運営している法人です。
平成19年度は、名古屋市熱田区、愛知県春日井市、長野県岡谷市で新規施設を予定しています。毎年、海外研修を行っています。（サンフランシスコ・オーストラリア）
毎年、アメリカから臨床心理士を招き、利用者様と職員との心のケアについての研修会を行っております。
研修センターを設置し、各職種に応じた研修会、資格取得に向けた勉強会を実施しています。
50事業所でISO9001を取得し、利用者様本位のサービス充実に努めています。

【法人の理念・経営方針】

利用者様の立場になって考えましょう。
利用者様の生きてこられた人生・価値観を理解しましょう。
利用者様の声、希望を無視しないで耳を傾けましょう。
利用者様の気持ち、体を傷つけるようなことは絶対許されません。
施設は孤立してはいけません。家族地域との連携を考えましょう。
法律、その他基準に従って運営を行います。福祉事業の変化と改革の先駆者となるよう、常に組織・運営を見直します。
<使命>
プロフェッショナルとしての最高の福祉サービスを創造する。

実施施設の概要

施設名：ジョイフル各務原
施設種別：特別養護老人ホーム（80）
ショートステイホーム（20）
デイサービス
一般型（35）
認知症型（12）
グループホーム（9）
居宅介護支援事業所
地域包括支援センター
活動開始年：平成19年2月
活動の対象者：地域の方々や職域団体

活動実施の背景、実施にいたった理由

現在、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で100万人養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指す活動が全国で展開中である。この活動は、かねてより「地域の認知症に対する理解を深めていきたい」と考えていた当法人の理念にそった活動であると感じ、以前から注目をしていた。

認知症サポーターとは…

認知症サポーター養成研修を受けた人を「認知症サポーター」と呼んでいる。認知症サポーターは何かを特別にやってもらうものではなく、研修を通じて認知症を正しい知識や、つきあい方を理解し、認知症の人を支援するのが認知症サポーターである。

* 詳しくは<http://www.caravanmate.com/>を参照

実施内容

そのような中、岐阜県にキャラバンメイトの養成講習が開催されることになり、併設の地域包括支援センター職員と特養職員が参加し、無事にキャラバンメイトとすることが出来た。

キャラバンメイトとは…

認知症サポーター養成研修を行うことのできる人の事を、このように呼んでいる。キャラバンメイトになるためには自治体等が主催するキャラバンメイト養成研修の受講が必要である。

キャラバンメイトとなったことで、認知症サポーター養成研修を実施することができ、研修会の受講者からは良い評価をいただくことができた。また、最初の開催後、チラシを作成し民生委員等を中心に周知したところ様々なところから開催希望の声が聞かれるようになった。

活動効果

この活動を通じて、多くの認知症サポーターを養成できたことが一番の成果である。また、地域包括職員と特養職員が開催できることで、活動の範囲が広がったと言える。この連携ができたことも大きな成果である。

[平成19年6月31日現在までの開催状況]

日時	参加者	参加人数
2/21	地域住民	45名
3/7	ボランティアグループ	19名
3/23	福祉科高校	85名
4/1	地域住民	52名
4/11	民生委員	24名
6/13	民生委員	29名
合計		254名

[8月の開催予定と今後の予定]

(8月開催)

地域子供会・特養家族会・特養厨房委託業者
(今後の予定)

近隣のスーパーや小中学校なども検討中、民生委員、近隣ケアや地域住民などには随時予定

今後の課題

チラシや口コミもあり、開催希望の声が多くなってきている。今後、全ての声に応じることが出来るかには不安も感じる。また、地域住民、職域など多分野に渡った開催、年齢などを考慮した開催をしていくには、サポーター養成研修のバリエーションを増やしていかなくてはならないとも痛感しており、今後の検討課題としている。そして何より、地域が認知症の高齢者にとって住みやすいところであるかは、これから勝負である。認知症サポーターとなっただけの方々、地域に出て何が出来るかを一緒に考えていくことへの必要性も感じる。

